

自動シャッターの小松電機産業

台湾で市場開拓

現地に総代理店 K D 生産も



超音波を利用したビニール製の自動シャッター「門番」で急成長している小松電機産業(本社島根県八雲村、社長小松昭夫氏)は台湾に総代理店を設置、台湾での自動シャッター市場の開拓に本格的に取り組み始めた。台湾にはすでに九億の輸出実績があり、今後の需要増も期待できることから、徐々にKD(現地組み立て)も進めていく方針。

小松電機産業の総代理店となつたのは倉庫設備設計・施工業の現代倉庫設備有限公司(台北市、総経理曾清正氏)。台湾最大の製紙メーカーである永豊餘造紙股份有限公司(台北市、総経理何寿川氏)が「門番」を八導導入、好評なのに着目して代理店契約を結んだ。

「門番」は超音波センサーを組み込み、車や人がシャッターの前に近づくと、自動開閉する装置。車から降りずに開閉できることや、開閉が瞬時に行われるため、冷蔵倉庫や食品工場など外気との温度差が激しいところなどでの需要が増えている。

現代倉庫設備はこのほど開かれた台北国際包装展に「門番」を出展、AT&T(米電話電信

台湾で本格販売する「門番」

会社)が台湾に持っている交換機工場に一導を納入した。台湾では気温が高いため、工場内を冷房するところが増えており、冷気を外部に逃がさないために「門番」の需要は相当ありそうだといい。

このため、小松電機産業は駆動部分やリミットスイッチなどの主要部分を現代倉庫に供給、現地でのKDを進めることも計画しており、「台湾を足がかりに世界中に門番のネットワークを広げていく」(小松社長)方針。